

折に触れ 四字熟語

NO. 330 『唯一無二』 ゆいつ むに

＜ 意味 ＞ この世でただひとつしかないこと。他に同類のものがなく、その一つ以外並ぶものがないこと。

表 言： この世で唯一無二の珍宝

用 例： 浄土真宗では阿弥陀如来を唯一無二のみほとけとして頼みまいらせ、観音などというような諸菩薩は認めませぬ。＜司馬遼太郎・尻啖え孫一＞

語 釈： 「唯一」「無二」は、ともに二つとないことを表す類義語で、これを重ねて意味を強調した語。

一 言： 5月30日付けの goo 辞書四字熟語のランクで1位になっていました。理由をご存知の通り、大相撲の大の里関が横綱昇進を伝達する使者に述べた口上の中に唯一無二の言葉が使われたことに因るものと思われます。

参考文献： 岩波書店「四字熟語辞典」